

学報

スポーツ文化の風を発信する

NITTAIDAI

32

2012.Summer



スポーツと世界平和

アフガニスタン・イスラム共和国 ハミド・カルザイ大統領
日本体育大学名誉博士称号 授与式(第7号)(平成24年7月9日)

ロンドン五輪体操 日本代表 田中理恵(日本体育大学研究員)

理事長ごあいさつ「飛び立とう!」— 1
学長エッセイ「世界に羽ばたき、平和の使者たれ」— 2
特集■スポーツと世界平和
インタビュー●日体大のパワーを世界へ— 3
ロンドンオリンピック出場選手一覧— 9
クラブ情報●2012年度上半期クラブの主な大会成績— 10
受験機会拡大の取組みについて— 11
新任教員紹介&メッセージ— 13
NEWS●2012年度上半期ニュース— 14
INFORMATION●dot.NITTAIDAI カルザイ大統領コメント— 15



写真提供：株式会社スポーツニッポン新聞社



湯元 健一



山室 光史



岩本 亜希子



阪本 直也



早川 漣



内村 航平

第30回オリンピック大会（イギリス／ロンドン）が目前に迫った。オリンピックの歴史とともに歩んできた本学。創立120周年を来春に控え、節目となる大会である。また、東日本大震災からの復興に取り組みむ日本は、全世界の注目を浴びることだろう。この二つの意味で、今大会はいっそう重い意味を持つ。本学の、そしてわが国の新しい歴史をつくるのは人々の「絆」の力。体育・スポーツの日体大として、本学には時代をリードしていく使命がある。心一つに、代表選手たちに声援を送っていききたい。暑い夏がもうすぐ始まる。

ツと世界平和

「飛び立とう！」



学校法人 日本体育大学
理事 長 松浪 健四郎

オリンピックの壮行会で皆が吐く。「金メダルを獲得して下さい」と。

十分に選手の派遣もままならない貧しい国が沢山あるのに、私たちは勝利だけを願う。

私たち日体大の使命は、その勝利も大切だけれど、国際社会で体育とスポーツの振興、普及に全力投球することではあるまいか。「強化」は、その次の作業だと思っ。

中国で野球やレスリングを最初に指導したのは、日体大の卒業生である。オリンピックを契機に、日体大は国際舞台で活躍することを考えて欲しい。私たちは、あらゆる面で国際化せねばならぬ時代に生きている。

この小さな島国を飛び出し、異国で君たちの技術や知識を教えてみてはどうだろうか。

君たちの先輩である私は、アマガニスタンで三年間、教壇に立った。その体験が私の人生の幅を広げてくれたと思っている。

たった一度の人生、翼を思い切り広げて飛び立とう。昨今、日体大生は小粒になつてはいまいか。一握りのオリンピックだけの日体大であつてはならぬ。主役は君たちである。



長谷川 恒平



齋川 哲克



松本 隆太郎



菅原 智恵子



中野 希望



丸山 桂里奈



近賀 ゆかり



川澄 奈穂美



北島 康介

第30回オリンピック競技大会 (2012/ロンドン)

- ・開催地 イギリス/ロンドン
- ・期間 2012年7月27日から8月12日(17日間)
- ・実施競技・種目 26競技302種目

日体大関係者が
これまでに獲得した
メダルの総数

108個

日本がこれまでに獲得し
たメダル総数における日
体大関係者の占める割合

1/4

夏季オリンピックにおいて
選手・役員として
オリンピックに携わった
日体大関係者の数

出場選手 **286**名
出場役員 **172**名

全代表選手の一覧は、9ページに掲載しています。

LONDON 2012

スポー

学長 エッセイ

世界に羽ばたき、平和の使者たれ



日本体育大学
日本体育大学女子短期大学部

学長 **谷釜了正**

世界の松舞台で活躍する瞬間がやってきました。このときのために鍛錬を重ね、オリンピック出場の栄冠を掴んだ選手の方々に心より敬意を表します。本学のオリンピック史に皆さんは輝かしい1ページを飾ることになります。同時に未来を担う後輩たちの道標ともなっています。ロンドンでは持てる力の全てを出し切り、思いっきり輝いて欲しいと思います。エンジン全開の澆刺とした姿は本学の学生・教職員・同窓に止まらず、全ての国民の皆さんのもとに計り知れない感動を運んでくれるに違いありません。このことが、2020年オリンピック・パラリンピックを日本に、を標語にして夢の実現に向かっている候補都市・東京に力強いエールを送ることに繋がります。最後にオリンピックの皆さんはオリンピックを通して、宗教、国境、人種の境を越えて、各国のアスリートと交わり、異文化世界が理解できる大きな人物となつて、平和の使者になるよう期待いたします。

仲間とともに、日体大のパワーを世界へ。

ロンドン五輪は、ベテラン勢に加えて、現役学生・大学院生7名が代表に選ばれるという快挙となった。競技を離れば、キャンパスとともに過ごす仲間たち。競技中に見ることができない意外な素顔も。五輪という大舞台への初挑戦を温かく応援しよう。



—まずはロンドン五輪出場が決まったときの心境をお聞かせください。

田中 もちろん、そこを二つの目標としていたところもあったので、ホッとした部分もありましたが、そこで終わりではないので、そこから毎日変わらぬ姿勢で練習に取り組みことを続けています。

—田中さんは初めての五輪出場となりました。

田中 自分の場合は代表チームに入ること年齢的には遅かったため、他の人にはない自分の長所、「のびのび笑顔で」演技することを続けてきました。その結果が五輪へつながったと思っています。毎日、五輪での演技を想定しながら、自分のレベルを高めて、かつベストな状態でロンドンの地へ入ることが、今もつとも意識していることです。

—独特の雰囲気の中で緊張などすることはないのでしょつか？

田中 もちろん緊張はします。ただ最近では、自分の試技が可能なランプが点いた瞬間に

同競技では異例ともいえる23歳での代表チーム入り。また兄、弟とともに3兄妹での五輪出場など様々な話題を集める田中さん。4月には全日本選手権初優勝を果たすなど、今、一番“強い”選手としてロンドンへの戦いに挑む、田中さんに心境を聞いた。

緊張が消えるようになりました。どのように克服しているかという答えは難しいのですが、自分で最高の精神状態を作ることが出来る選手が、強い選手なのだと思います。

—ご自身の性格を分析すると、田中さんはどんな人なのでしょう？

田中 起きたことを後に引きずらないですね。サバサバしていますね、言い換えると男っぽい性格です(笑)。あとは常に前向きな感じでしょう。

—練習がオフの際の過ごし方などは？

田中 普通の女子と変わらないですよ(笑)。買い物に出かけたりしますよ。でも都内に出るには相当格好に気合入れていかないとけないので、近場で済ませがちですね…。面倒くさがりなので。

—現在は体操競技部の寮長を務めているそうですね。

田中 規律面は4年生に任せているので、私は何にも言わないリーダーです(笑)。悩みがありそうな選手に声をかけたりするとか、部内の雰囲気を作りたい意識しています。鶴見選手も一年生の仕事をちゃんとしてくれていますよ。

—まもなく五輪本番です。どんな演技を見たいですか？

田中 もちろん結果は出せれば一番なのですが、自分の持っている全てを大舞台で出すことが、そして最高の笑顔で試合を終えることが目標です。多くの方の応援の力を感じつつ、しっかりと田中理恵を表現してきたいと思っています。



田中 理恵さん

笑顔で自分らしく。自分に関わる
すべての人の力を感じ、
ロンドンへ臨む。

鶴見 虹子さん

北京に続き

2度目の五輪への挑戦。

自然体で、世界の頂点へ。

昨年まで全日本選手権6連覇。前回の北京五輪では24年ぶりの団体総合入賞(5位)に貢献した鶴見さんが大学生となって初めての五輪を迎える。負傷を乗り越えての大舞台への切符をつかんだ鶴見さんに、本大会への意気込みや大学生活の様子を聞いた。

—まずはロンドン五輪出場、おめでとうございませう。

鶴見 ありがとうございます。私は選考会では手の負傷もあり、出場権獲得にあたっては厳しい戦いでした。最終日に追いつけることが出来て本当に嬉しかったです。現在、負傷

も回復しつつあり、ロンドンではベストの状態で臨めると思います。

—鶴見さんにとっては2度目の五輪出場となります。

鶴見 五輪は選手村の雰囲気など、独特な大会です。世界中の注目が集まるところで自分の演技が出来るとは素直に喜びたいと思います。また2度目ですが、今回は(田中)理恵さんのような先輩方とともに、しっかりと結果を出していきたいと思えます。また五輪は他競技の選手たちとも出会えますし、日本以外の選手たちとのコミュニケーションも楽しみの一つです。ロンドンでも多くの友人を世界中に作れればいいなと考えています。—さて大学生活はいかがですか？



鶴見 自分は体操しかできないのですが(笑)、色々なエキスパートな選手たちに出会える環境は、とても刺激的です。実は今日もプールのテストがあったのですが、結果は聞かないでください(笑)。でも、本当に楽しい学生生活を送れています。

—寮生活はいかがですか？

鶴見 寮長の(田中)理恵さんのご指導もあり(笑)、厳しい面もあるのですが、自分の体操を伸ばすにあたっては、競技に集中できる環境が整えられていると思います。オフの日は買い物へ出かけたりしますよ、近場の青葉台が多いですが…(笑)。

—田中理恵さんの話題が出ましたが、どんな先輩ですか？

鶴見 私の高校時代からですから、もう長い付き合いになりつつありますが(笑)、体操に対する取り組み方、向き合い方がとても参考になります。共に刺激し合う中で、多くのものを学ばせていただいています。競技を離れると、優しいお姉さんというか、授業のころなど、何でも悩みも聞いてくれます。

—まもなく五輪がやってきます、日体生へメッセージをください。

鶴見 日体の代表として、持てる力をすべて出し切りたいと思います。日本時間では夜遅くの試合ですが、応援してくれば幸いです。是非、皆さんの声援を力にしたいと思います。



昨年の世界選手権(上海)で日本男子個人メドレー初となる銅メダルを獲得するなど、豊富な練習量で着実に実績を築いてきた堀畑さん。自らとことんのめり込むタイプと語る堀畑さんに、競泳、五輪にかける思いを聞いた。

堀畑 裕也さん

妥協せず、勝負にこだわる レースを展開し、 メダルを獲得したい。



—まずはロンドン五輪出場が決まったときの心境をお聞かせください。

堀畑 もちろんうれしかったです。応援いただいた皆さん一人ひとりに感謝の気持ちでいっぱいでした。ただ、2位(日本選手権・男子400m個人メドレー決勝)という結果に悔しさは残りました。

—五輪までの道のりの中で印象に残ることはなんでしょう。

堀畑 昨年の世界選手権以降、オリンピック選考会までの約8ヶ月間、強化合宿の回数練習の質も大きく変わりました。その変化は、やはり印象的です。

—五輪に向けての課題や抱負をお聞かせください。

堀畑 これまで、バタフライ、背泳ぎをテンプ良く泳ぐことに注力してきました。それとともに、今後は前半の強化、そして後半無駄のない泳ぎでいかに粘りを発揮できるかということ課題と考えています。オリンピックでは、勝負にこだわるレースを展開し、メダル獲得を果たしたいです。

—ところで、競技を離れた堀畑さんの素顔は？

堀畑 ひとつのことに熱中しやすく、熱くなりやすいタイプですね。音楽もアニメも好きなものはとことん好きになってしまっているので、それしか見えなくなってしまうんです。ストレス解消法は、外出(ショッピング)でしょうか。

—日々心がけていることは？

堀畑 やはり人とのつながりを大切にすることです。大会でも、入場時にスタンドで応援してくださる方々の姿を見ると緊張感が和ら

ぎます。感謝！です。学校でも、なにより友達に会えるので、授業を楽しみにしています。一人とのつながりの大切さは、水泳部でも同じですね。

堀畑 そうですね。みんなで声を出し合い、意識を高め合うようにしています。全員が仲良しでありながら、先輩・後輩という最低限の規律は守り、時には厳しく、そして楽しく生活しています。雰囲気は最高ですね。

—日体大の強みとはなんでしょう？

堀畑 トップ選手が集まっていることはもちろん、練習に打ち込みやすい環境が整っています。ですから、目標達成という結果につながるわけです。私も、個人メドレーのインカレチャンピオンが在籍していたこと、練習環境が整っていて、しかも練習が活気に溢れていたため、日体大に入学しました。

—最後に日体大生へメッセージをお願いします

堀畑 やりたいことを見つけ、毎日を楽しんでください。なんでもチャレンジしてみることが大切。充実した学生生活はいましか味わうことができません。僕もオリンピックではチャレンジャーとして頑張りたいと思います。

るわけですが

松本 まず、堀畑選手ですが、練習を本当によく頑張っています。声を人一倍出していて、気合も十分。身長に負けないビッグボーイになって欲しいです。高橋選手は、本当に可愛い妹のような存在。「弥生さんのために頑張ろうと思った」と言ってくれたことがあり、とても嬉しかったです。

—では、松本さん自身については？

松本 明るくポジティブだと思います。辛いことがあっても、引きずらないタイプです。気分転換は買い物や食事などの外出。代表

女子フリーリレーで上位進出の鍵を握る松本さん。女子リレー代表チーム、そして日体大水泳部(競泳)の中でも存在感を示している。自分に厳しい一方、後輩たちを見守る視線は温かい。まさに「要」として五輪の大舞台に立つ。

松本 弥生さん

リレーのメダル獲得で、

日本チームに

勝利の流れを作りたい。

—いよいよ五輪開幕が迫ってきましたが

松本 五輪出場を果たすことができ、ホッとしています。本番を控え、現在は合宿中です。メインの練習では4人が一列に並び、競い合います。いわばメンバー同士がライバル。「他国に競り勝つ」という意味で、この練習は本番のシミュレ

ションになっています。

—本番に向けた課題はなんでしょう

松本 本番では思わぬアクシデントが起こることがあります。なにより、メンタル面も含め万全の状態を臨めるように、準備を怠らないようにしたいです。

—目標はもちろんメダルですね

松本 メンバーの力を合わせ、400mリレーでメダル獲得を狙います。初日にこのレースがあるので、メダルを獲得して、日本チームに良い流れを作りたいです。

—さて、2人の後輩とともに五輪に出場す



世界で戦える選手になりたい。 この夏こそ念願の夢を 果たすとき。

高橋 美帆さん

五輪の切符を手にながらも、選考会で日本記録を出したかったという高橋さん。目標はあくまで高い。同じ代表の先輩たちと同様、ストイックさを感じさせる一方で、明るくポジティブな水泳部競泳の練習の様子も語ってくれた。



に選ばれた時は、自分にご褒美を買いました。
—試合での緊張をどのように乗り越えていますか
松本 音楽を聴いてリラックスします。でも、泳ぎをイメージすることは怠りません。適度にテンションを上げていくというスタイルでしようか。
—日体大へ進学した理由はなんですか？
松本 コーチの「日体に来たら強くなってやる！」という言葉に背中を押されました。大学院に進学しせっかく友達ができたのに、なかなか授業に出席することができないのが残念です。ただ、先生方も競技生活のことを理



解してくださり、応援してください。周りの方々に本当に恵まれていると思います。
—日体大の学生へ、エールと五輪への決意をお願いします。
松本 日体大生は、体力、メンタル、笑顔がピカイチ。部活も勉強も、好きなこと、興味があることをとことん追求して、青春を満喫して欲しいと思います。
今、この一瞬は二度と返ってくることはありません。やらずに後悔するなら、結果がどうであれ挑戦したほうがいい。いや、絶対成功させましょう。私もオリンピックに全力で臨みます。応援よろしくお願いします。

—松本選手、堀畑選手の両先輩とともに五輪出場が決まりました。
高橋 日体大に入学したからこそ手にできた切符だと思えます。ずっと夢だったことなので、本当に嬉しかったです。同時に、ほっとしたという気持ちもありました。
—これまで並々ならぬ努力をしてきたと思いますが
高橋 特に五輪に向けては、苦手なバタフライのフォーム改善、精神面の強化に努めてきました。グアム強化合宿やアメリカ高地合宿で、いままでになく質の高い練習をしたことが現在の力になっています。
—五輪にかける思いを聞かせてください。
高橋 個人メドレーは高いレベルが要求され

るため、各種目のさらなるフォームの改善に注力したいと思っています。世界で戦える選手になりたい！それが以前の目標です。アスリートの最高の舞台で、ぜひ決勝に残って戦いたいですね。
—ところで、現在の学生生活の様子はいかがでしょうか？
高橋 授業、練習という繰り返しの毎日ですが、目標がはっきりとあるので、楽しく充実した生活を送っています。また、合宿や試合で国内外に行く機会が多く、貴重な体験をさせていたれています。
—日頃堂々とした泳ぎを見せてくれていますが、高橋さんの素顔は？
高橋 大雑把なところもある一方、小さいことも結構気にするタイプです(笑)。緊張する場面では「やれることはやってきたから自分なら絶対大丈夫だ！」と思うようにしています。ストレス解消法は、寝ること、おいしいものを食べる、友達と遊ぶこと。特に甘いものが好きで、最近は抹茶にはまっています。
—水泳部の雰囲気や練習の様子はいかがでしたか？
高橋 高校の時から憧れ。日本代表の先輩にお会いしたり、インカレを見たりして、

絶対に入りたいという気持ちでした。とにかく「楽しい」の一言。きつい練習も明るく元気に乗り切っています。人数が多いために、さまざまな選手と切磋琢磨し、高め合うことができるのも強みです。
—松本弥生先輩や堀畑裕也先輩について一言
高橋 両先輩とも、どんなにきつい時でも「やる！」というストイックなところがすごいと思います。本当に水泳が好きそうな子が伝わってきて素敵です。
—日体大の学生たちも期待を寄せていると思いますが
高橋 競泳だけでなく、他の部の方の活躍を耳にすると気が引き締まります。日体大の先輩である田島寧子さんの400m個人メドレーの日本記録を破って、決勝の舞台で戦いたいと思います。応援よろしくお願いします。





日本のお家芸であるシンクロナイズドスイミング。マーメイドJapanがロンドン五輪出場を果たしたことで、その伝統を守った。代表メンバーの一人、箱山さんに、大舞台を控えた心境、華麗な演技を離れ素顔を語ってもらった。

箱山 愛香さん

応援してください。すべての方々と一体となつて、

最高の演技を披露したい。

—ロンドン五輪出場、おめでとうございませう。

箱山 幼いころからの夢だったので、率直にうれしいです。海外の選手に比べて、日本はプレゼンテーションが課題なので、最後の最後まで練習しました。

—マーメイドJAPANはますます息がぴったりですね。

箱山 選手の気持ちが一つになることはもちろん、やはり家族、仲間、そして日本全国の皆さんが見てくださっているというところがすごく励みになります。

—箱山さんにとって「シンクロ」とは？

箱山 すっかり生活の一部ですね。演技のことで頭がいっぱいです。いまは、正確かつ日本らしくシャープな演技ができるように練習に励んでいます。

—ところで、趣味やプライベートはいかがでしょう？

箱山 映画を見ること、音楽を聴くことが好きです。ストレス解消



法は、おいしいものを食べに行ったり、ゆっくりお風呂に入ったり。どちらかと言えば、マイペースでのんびり屋でしょうか。

—日体大に進学した理由を教えてください。

箱山 やはり、どんなスポーツにも強いところが魅力です。さまざまな競技の選手から刺激を受けながら自分も頑張ることができると思いました。

—マーメイドJapanには、同じ日体大の糸山選手がいますが

箱山 心強いですね。チームの絆も最高。練習中はたくさん声をかけ合い、励ましています。先輩方もていねいに面倒をみてくださいます。

—五輪へ向けた思い、そして日体大生へひと言をお願いします。

箱山 夢である大きな舞台で、マーメイドJapanチーム一丸となって最高の演技ができるように頑張ります。ぜひ応援してください！そして、他部の代表選手の皆さん、各部の皆さんの活躍をお祈りしています。日体大のすべての人にとって素晴らしい夏にしたいですね。



もう一人、マーメイドJapan代表選手の糸山さん。箱山さんと支えあい、揃ってロンドン五輪の切符を手にした。

共になくはない存在だと話す。五輪でシンクロの魅力を多くの人に伝えたいと話す糸山さんに、今の心境を聞いた。

糸山 真与さん

同期、チームの

メンバーとともに、シンクロの素晴らしさを世界へ伝えたい

—五輪に向けて頑張ってきた甲斐がありましたね

糸山 高校時代まで、授業が終わってから土浦から都内まで通い練習してきましたから、喜びもひとしおです。このチャンスを大切に精一杯頑張ります。

—ロンドン五輪の抱負はなんでしょう？



できたことが印象に残っています。仲間を信じ、自分を信じ、自信を持ってダイナミックな演技を披露したいです。

—糸山さんにとって「シンクロ」とは？

糸山 小谷実可子選手に憧れ、小学校2年生から始めました。競技面はもちろんですが、それ以外の部分でも自分を成長させてくれた心の支えだと思います。

国内の大会では実績がなく、オリンピック出場は手が届かぬ夢と感じていた佐藤さん。監督の関根先生との出会いや日体大の充実した競技環境により、はるか遠くにあった夢が現実のものとなったという。

佐藤 冴香さん

実業団以上のサポート。

日体大の充実した環境で、夢だったオリンピックを現実に。



「オリンピックまであとわずかとなりましたが、今の率直なお気持ちは？」

佐藤 実感がわかないというのが正直なところです。オリンピックは目標ではありましたが、実現は難しい遠い夢だという感覚でしたので。五輪代表の選考レースは、2年かけて行われますが、「もしかしらいいけるかも」と思うようになったのは今年に入ってからです。

「まさかオリンピックに出場できるとは」というところでしょうか。

佐藤 ただ監督の関根先生は、入学時から「オリンピックに向けて」という方針で指導してくださいました。私は高校時代、世界ジュニア大会では2位になったこともありましたが、国内の大会で実績がなく、卒業時には実業団からも声がかかりませんでした。高校



のバドミントン部の顧問の先生が日体大出身ということで、関根先生ともご縁があり声をかけていただいて、ここまで来られたのです。

「関根先生はどんな先生ですか？」

佐藤 父のような存在です。先ほども述べましたが、私は海外では勝てるけれど国内ではなかなか結果を出せない傾向がありました。五輪の選考はあくまで国内の成績によるものですから、「そんな自分がオリンピックに出ていいのだろうか」と思うこともありましたが、関根先生には常に暖かく励ましていた

「糸山さんの素顔やオフの過ごし方は？」

糸山 どちらかと言えば不器用。そして、楽しいことが大好きです。オフはDVDなどを観て過ごしています。ストレス解消法は本を読んだりして、頭を切り替えること。緊張した時は深呼吸などでリラックスするようにしています。

「日体大に進学した理由を教えてください。」

糸山 シンク口に集中しながらも、スポーツについて幅広く学べると思ったからです。授業で印象に残ったことを競技で活かすようにしています。



できました。

「バドミントンという競技を取り巻く環境も厳しそうです。」

佐藤 確かにその通りですが、日体大は実業団以上に環境が整っています。メンタルコーチ、フィジカルコーチなど専属コーチのほか、栄養面のアドバイザーなどスタッフが充実。また実業団ですと、企業の看板を背負っているため、五輪代表選考と関係のない実業団の大会にも出場しないといけないのですが、私は大学から「学生の大会はいいか

「チームメイトの箱山選手についてひと言」

糸山 かけがえのない存在です。いつも一緒にいてくれて2人で支え合って頑張っています。先輩方も本当に頼りになる方々ばかりで心強いです。

「日体大生へメッセージをお願いします」

糸山 シンク口は馴染みが薄い方もいらっしやると 생각합니다。この機会に、ぜひ演技を観て、楽しんで欲しいと思います。オリンピックの舞台では、日本と世界の方々に楽しさが伝わるように頑張ります。チームメイト Japanへの応援をよろしくお願いします。



な場所が好きですね。特に映画が好きで、先日は『貞子3D』を見ました。バドミントン部の同年代の友人と食事やカラオケに行くことなどもあります。オフのときは、意識的にバドミントンのことはまったく考えずに、完全にリフレッシュすることを心がけていますね。

「では、オリンピックでの目標をお聞かせください。」

佐藤 最初にリーグ戦を行なったあとトーナメントが行われるのですが、まずはリーグ戦を1位通過することです。みなさんには、私の特長である、日本の選手ではめずらしいパワーとスピードを前面に押し出したプレーを見てほしいと思います。

長谷川 恒平 はせがわ こうへい 平成22年大学院前期課程修了 静岡県出身
レスリング/グレコローマン55キログ



所属:福一漁業
2005年、2006年には全日本学生選手権のグレコローマンスタイル55kg級で2連覇を達成。2007年、全日本選手権初優勝。日本代表として挑んだ2008年のアジア選手権で銅メダル。2010年の広州アジア大会では、金メダルを獲得した。2011年は全日本選手権で5連覇を達成。2012年3月、カザフスタンのアстанаで行われたロンドン五輪アジア予選優勝。

糸山 真与 いとやま まよ 体育学科3年 茨城県出身
水泳(シンクロナイズドスイミング)シンクロナイズドスイミングチーム



所属:クラブ調布
ジュニア世界選手権などで着実に経験を重ね、日体大進学と同時に日本代表メンバーに選出された。2010年の広州アジア大会や2011年の上海世界選手権で実績を積み、2012年4月には、ロンドンで開催された世界最終予選に出場。日本はロシア、スペインに続いて3位に滑り込み、5大会連続のオリンピック出場を決めた。

**ロンドンオリンピック
出場選手一覧**

松本 隆太郎 まつもと りゅうたろう 平成22年大学院前期課程修了 群馬県出身
レスリング/グレコローマン60キログ



所属:群馬ヤクルト販売
全日本選抜選手権では、グレコローマンスタイル60kg級で2009年から3連覇を達成。ロシアで開催された2010年の世界選手権では銀メダルを獲得。2012年3月、カザフスタンで開催されたロンドン五輪アジア予選に挑み、準決勝で強敵のアリポフを撃破。グレコローマンスタイル60kg級で2位となり、各階級の上位2人に与えられる五輪切符を獲得した。

鶴見 虹子 つるみ こうこ 体育学科1年 大分県出身
体操競技



2008年の北京五輪は、24年ぶりの団体5位に貢献。個人総合で17位、種目別の平均台で8位に入るなど健闘した。さらに2009年の世界選手権では、個人総合で銅メダル、種目別の段違い平行棒で銀メダルを獲得。2011年は全日本選手権で史上初の個人6連覇を達成。同年7月のジャパンカップでは、2位を0.100点差でかわし、個人総合で初優勝を果たした。

高橋 美帆 たかはし みほ 体育学科2年 京都府出身
水泳(競泳)/400m個人メドレー



高校に入学後、個人メドレーへ転向。2010年に日本代表入りし、パンパシフィック選手権に出場。2012年2月の日本短水路選手権で短水路の日本新記録をマーク。4月の日本選手権は400m個人メドレーで2位に入り、派遣標準記録を破ってロンドン五輪の出場権を手に入れた。ロンドン五輪では表彰台と、12年ぶられていない日本記録の更新を狙う。

齋川 哲克 さいかわ のりかつ 平成20年体育学科卒 栃木県出身
レスリング/グレコローマン96キログ



所属:両毛ヤクルト販売
全日本大学選手権をはじめ、個人で四冠を達成。2009年、2010年の全日本選手権では、グレコローマンスタイル84kg級で優勝。さらに2010年のアジア選手権でも銀メダルを獲得。2011年にはグレコローマンスタイル96kg級に転向。全日本選手権では同階級で優勝。2012年、カザフスタンで行われたアジア予選のグレコローマンスタイル96kg級で準優勝。

田中 理恵 たなか りえ 平成24年大学院前期課程修了 和歌山県出身
体操競技



所属:日本体育大学 研究員
2009年の全日本選手権で2位に入り、一躍脚光を浴びる。同年、インカレ二冠。2010年の世界選手権では、団体の5位入賞に貢献。個人総合でも17位と健闘し、最もエレガンスな演技をした選手に与えられる『ロンドン・エレガンス賞』を日本人女子として初受賞。2012年の全日本選手権では、個人総合で初優勝。5月のNHKも個人総合で初優勝を果す。

堀畑 裕也 ほりはた ゆうや 体育学科4年 愛知県出身
水泳(競泳)/400m個人メドレー



2010年の広州アジア大会では中国選手とのデッドヒートを制して金メダルを獲得。さらに、2011年の上海世界選手権では400m個人メドレーで表彰台に立つ。この種目でメダルを獲得したのは、オリンピック、世界選手権を通じて日本人男子としては初めての快挙だった。4月の選考会は惜しくも優勝を譲ったが、派遣標準記録を破ってロンドン五輪の切符を獲得。

早川 漣 はやかわ れん 平成23年体育学科卒 韓国出身
アーチェリー



北京五輪に出場した姉(早川浪)に続き2007年来日。日体大に入学。2009年に日本国籍を取得。小学校3年生からの豊富なキャリアと179センチの長身を生かしたダイナミックな射形を武器に、2010年、2011年の全日本選手権で優勝を果たす。2011年7月にイタリアのトリノで開催された世界選手権で16強入りし、ロンドン五輪の代表に内定。

内村 航平 うちむら こうへい 平成23年体育学科卒 長崎県出身
体操競技



所属:コナミ
2008年の北京五輪では団体の銀メダル獲得に貢献。個人総合でも銀メダルを獲得。オリンピックの個人総合でメダルを獲得したのは、日本人として24年ぶり、10代では史上初の快挙。2009年ロンドン、2010年ロッテルダム、2011年東京の世界選手権で、史上初となる個人総合3連覇を達成。同大会ではゆかで日本人として34年ぶりとなる金メダルを獲得。

松本 弥生 まつもと やよい 大学院1年 静岡県出身
水泳(競泳)/400m・800mフリーリレー



2009年のローマ世界選手権で初の代表入り。2010年の日本選手権では50m自由形で優勝。同年秋の広州アジア大会では、50m自由形で国際大会初の銅メダルを獲得した。2011年の上海世界選手権はリレーのメンバーとして出場し、4×100mフリーリレーで7位。ロンドン五輪の選考会を兼ねた4月の日本選手権では、50m自由形の日本記録に0.04秒まで迫った。

阪本 直也 さかもと なおや 平成23年体育学科卒 和歌山県出身
カヌー/スプリントカナディアン



所属:和歌山県教育センター学びの丘
2009年にナショナルチーム入りし、2010年、2011年の日本選手権ではカナディアンシングル200m、500mで2連覇を達成。2010年の広州アジア大会ではカナディアンシングル200mで銅メダルを獲得。2011年の世界選手権でも19位と着実に成長。同年10月イランで開催されたロンドン五輪アジア最終予選は、カナディアンシングル200mで3位に入る。

山室 光史 やまむろ こうじ 平成23年体育学科卒 茨城県出身
体操競技



所属:コナミ
2007年にナショナルチーム入り。2008年アジア選手権の個人総合で優勝し、初の国際タイトルを獲得。さらに2010年、ロッテルダムで開催された世界選手権に初出場し、団体の銀メダル獲得に貢献。種目別のつり輪で4位に入る健闘を見せた。2011年の世界選手権(東京)では、団体で銀メダルを獲得し、個人総合とつり輪でも3位に入った。

北島 康介 きたじま こうすけ 平成17年体育学科卒 東京都出身
水泳(競泳)/男子100m平泳ぎ・男子200m平泳ぎ



所属:日本コカ・コーラ
2000年に高校3年でシドニー五輪に出場し、100m平泳ぎで4位に入賞。2004年のアテネ五輪では、100m、200m平泳ぎの2種目で金メダルを獲得。2008年の北京五輪でも100m、200m平泳ぎで優勝、平泳ぎではオリンピックで初めて2大会連続2種目制覇を達成した。また、日本人としてオリンピックで2大会連続2種目制覇を果たしたのは史上初の快挙。

岩本 亜希子 いわもと あきこ 平成15年大学院前期課程修了 長野県出身
ボート/女子軽量級ダブルスカル



所属:アイリスオーヤマ
2000年には軽量級ダブルスカルでシドニー五輪に出場。2003年、イタリアのミラノで開催された世界選手権では、女子シングルスカル5位。2004年のアテネ五輪、2008年の北京五輪に日本代表として出場。2012年4月、韓国の忠州で開催されたアジア予選で1位となり、ロンドン五輪の切符を手に入れた。オリンピックの出場はシドニー以来4大会連続。

湯元 健一 ゆもと けんいち 平成24年大学院前期課程修了 和歌山県出身
レスリング/フリー60キログ



所属:総合警備保障
高校3年生でインターハイ優勝。2005、2006年の全日本選手権を制して、国内のトップ選手に上り詰める。2008年、北京五輪では銅メダル。2011年にはトルコで開催された世界選手権で3位、2012年4月の日本代表決定プレーオフで全日本チャンピオンの前田翔吾を退けてロンドン五輪の切符を獲得。日本のレスリング界初の双子でのオリンピック同時出場。

箱山 愛香 はこやま あいか 体育学科3年 長野県出身
水泳(シンクロナイズドスイミング)シンクロナイズドスイミングチーム



所属:クラブ調布
2008年、ジュニア世界選手権の団体で銅メダルを獲得。早くから脚光を浴び、2010年にマーメイドジャパンに抜擢。身長176センチはマーメイドジャパンでトップ。チームの平均を9センチ近く上回っている。2010年の広州アジア大会や2011年の上海世界選手権などに出場し、着実に経験を積んでいる。長身を生かしたダイナミックな演技が持ち味。

近賀 ゆかり
サッカー女子

きんが ゆかり 平成19年体育学科卒 神奈川県出身



所属:INAC神戸レオネッサ
2005年3月のオーストラリア戦で代表デビュー。以降、日本代表のレギュラーに定着。2008年北京五輪に出場し、ノルウェー戦では代表初ゴールを記録。2011年、日テレ・ベレーザからINAC神戸レオネッサに移籍。その年のFIFA女子ワールドカップでは右サイドバックで全試合にフル出場を果たし日本の初優勝に貢献。国際Aマッチ通算79試合5得点。

菅原 智恵子
フェンシング/女子フルーレ個人・団体

すがわら ちえこ 平成11年体育学科卒 宮城県出身



所属:宮城クラブ
2005年、中国の上海で行われたワールドカップで、日本人女子として初めての優勝を果たす。2007年、世界選手権のフルーレ団体で日本初の銅メダルを獲得。31歳で臨んだ2008年の北京五輪は準々決勝で敗れたものの、日本人女子として初の7位入賞を果たす。全日本選手権では2008年から4連覇。その後、第一線から退くも、経験を買われて選手に復帰。

佐藤 冴香
バドミントン/女子シングルス

さとう さやか 体育学科4年 宮城県出身



高校3年のインターハイで準優勝、同年の世界ジュニア選手権でも銀メダルを獲得。2009年のニュージーランドオープンで優勝し、初の国際タイトルを獲得。さらに2010年のインドネシアオープン、2011年のUSオープンで準優勝するなど、着実に国際大会で好成績を収めている。2012年5月3日付の世界ランクによって、ロンドン五輪の切符を手に入れた。

丸山 桂里奈
サッカー女子

まるやま かりな 平成17年体育学科卒 東京都出身



所属:スベランツァFC大阪高槻
2004年アテネ五輪に出場。2008年北京五輪では、なでしこジャパン4位に貢献。2010年、アメリカのフィラデルフィア・インペンデンスに移籍し、4試合に出場。さらに2011年のFIFA女子ワールドカップで活躍。ロンドン五輪最終予選の中国戦で右ひざの前十字靭帯を損傷(全治6カ月)したが驚異的な回復を見せ代表入り。国際Aマッチ通算は70試合14得点。

川澄 奈穂美
サッカー女子

かわすみ なほみ 平成20年体育学科卒 神奈川県出身



所属:INAC神戸レオネッサ
2011年のFIFA女子ワールドカップでは、スタメンに抜擢された準決勝のスウェーデン戦で2ゴール。アメリカとの決勝の戦もFWとしてフル出場し、金メダルの立役者となる。INAC神戸レオネッサでは、キャプテンとしてなでしこリーグの初優勝に貢献。個人でもMVPと得点王をW受賞、日本を代表するプレーヤーとなる。国際Aマッチ通算は31試合8得点。

中野 希望
フェンシング/女子エペ

なかの のぞみ 平成21年体育学科卒 福井県出身



所属:大垣共立銀行
2007年、全日本選手権で初優勝。2009年W杯キューバ大会、ユニバーシアードで銅メダル獲得。2010年の広州アジア大会では日本の団体金メダルに貢献、個人でも銀メダルを獲得し、出身地・越前市の市民栄誉賞に輝く。2012年4月に和歌山で行われたロンドン五輪アジア・オセアニア最終予選は、決勝戦でギリギスの選手を15-6と圧倒し優勝した。

写真提供: フォートキシモト

平成24年度 [上半期クラブの主な大会成績]

学生支援センター 生活支援部門 調べ 4月~6月
情報は新聞各紙(日体大スポーツ含む)・インターネットからの抜粋

クラブ名	性別	大会名	種目	順位	氏名
■ウエイトリフティング	男子	第72回全日本選手権大会	77kg級	優勝	山本俊樹(3年)
	男子	第9回東日本学生新人選手権大会	105kg級	4位	舟木誠生(3年)
	男子	第9回全日本学生選抜選手権大会	56kg級	優勝	艾幸太(1年)
	女子	第9回全日本学生選抜選手権大会	56kg級	3位	佐野優樹(1年)
	男子	第58回全日本学生個人選手権大会	105kg級	優勝	大嶋慶輝(1年)
	女子	第24回全日本女子学生選手権大会	69kg級	3位	辻誠人(4年)
■空手道	女子	第48回東日本大学空手道選手権大会	75kg級	2位	柳川夏子(3年)
■ソフトボール	女子	第44回東京都大学連盟春季リーグ戦	56kg級	2位	艾幸太(1年)
■相撲		第91回東日本学生相撲選手権大会	77kg級	優勝	山本俊樹(3年)
■ハンドボール		JAPAN CUP2012 TOYOTA GAMES	75kg級	優勝	柳川夏子(3年)
■フェンシング	男子	第65回関東学生春季リーグ戦	団体戦	優勝	
	女子		エペ	3位	
	男子	関東学生フェンシング新人戦	フルーレ	5位	
	女子		エペ	優勝	
	男子		サーブル	5位	
	女子		フルーレ	5位	
	女子		エペ	4位	
■ライフセービング	男子	第25回全日本ライフセービングプール競技選手権大会		3位	
	男子	第25回全日本ライフセービングプール種目別選手権大会	ビーチスプリント	3位	石井雄大(2年)
			オーシャンマン	4位	坂本陸(1年)
			2kmビーチラン	優勝	鈴木反三郎(2年)
			ボードレース	2位	宮田沙依(4年)
	女子		2kmビーチラン	2位	渡邊来美(2年)
			オーシャンウーマンリレー	4位	
■ラクロス	男子	第2回全国ブレイクシーズントーナメント		2位	
■チアリーダー		アジアインターナショナルオープンチャンピオンシップ		5位	
		関東選手権大会		3位	
■アルティメットチーム	女子	東日本フレッシュマンズカップ		優勝	
■インラインホッケークラブ	女子	NARCH		3位	
		関東インラインホッケー選手権大会		3位	
■ダブルダッチサークル		AmericanDoubleDutchLeage	総合	優勝	
■フィンスイミングクラブ	男子	日本選手権	4×200mSFリレー	3位	
	女子		4×100mBFリレー	3位	
			4×200mSFリレー	3位	
			1500mSF	3位	奥平雪乃(3年)
			400mイマージョン	優勝	奥平雪乃(3年)
			1500mBF	3位	竹尻采加(2年)
■自転車競技	男子	全日本学生選手権大会	トラック	優勝	倉林巧和(3年)
	女子	第37回 チャレンジサイクルロードレース大会	スプリント	3位	福沢涼太(3年)
	男子	第52回東日本学生選手権トラック自転車競技大会		優勝	小島蓉子(4年)
	女子	第81回全日本アマチュア自転車競技選手権大会	ポイントレース	優勝	倉林巧和(3年)
			500mTT	優勝	小島蓉子(4年)
			500mTT	優勝	古河麻美(4年)
	女子	第51回 全日本学生選手権 チーム・ロード・タイムトライアル大会&全日本学生RCS第3戦個人TT	個人ロード・タイムトライアル	優勝	小島蓉子(4年)
	女子	第28回全日本学生選手権個人ロードレース大会	個人ロードレース	3位	小島蓉子(4年)



さまざまな個性を受け入れるべく、入試チャンスを一層拡大。

平成25年度入試制度変更点 受験機会拡大の取組みについて

18歳人口の減少を受け、多くの大学が学生募集に苦戦する中、本学の平成24年度入試は、志願者数が前年度比11.4%という好結果となった。同窓を中心とした多くの皆様のバックアップはもちろんで、昨年度より実施してきた受験機会拡大の功を奏した。スポーツを愛する幅広い人材を受け入れていきたい。荻浩三アドミッションセンター長に平成25年度入試試験の概要を聞いた。

●入試制度多様化の狙い

平成24年度入試より、新たな区分として「地域ブロックAO入試」「指定校推薦(全国指定校)」「一般入試B方式」を導入しました。また、プロスポーツ選手のセカンドキャリアを支援する「リカレント入試」も始めました。いずれも、受験層、受験機会の拡大を目的としたものです。

「地域ブロックAO入試」は、地方からより優秀な高校生に本学を目指してもらい、将来は地元に戻ってスポーツを軸とした職域で活躍できるような人材を育成したいという意図から導入されました。また、これまで推薦入試のうち指定校推薦は「併設校」もしくは「体育科等設置校」に限られていましたが、これを「併設校」と「全国指定校」という枠組みに改め、47都道府県全てに本学の指定校を挙げました。

「一般入試B方式」は実技試験を課さず、学力試験のみで入学者を選抜するものです。2月の一般入試(筆記試験+実技試験)をA方式とし、新たに3月に実施しました。募集人員10名に対して331名もの志願者があり、スポーツの実績に特別秀でていなくても、本学でスポーツについて学びたいという受験者層を掘り起こすことができたと考えています。

結果、4,067名(平成23年度3,533名)と志願者数が53.4名増となりました。しかし、他大と比べてまだまだ入試機会、入試方法の多様化を図る必要があります。「日体大」トップアスリート

だけが入学できる大学」という大きな誤解が皆さんの間で生じていることも看過できません。この点を課題として、今後も広報の在り方を検討していきます。

●新制度の入学者に期待

今回初めて、新入生に対して国語と英語の基礎学力テストを実施しました。各入試区分に期待した人材の選抜がこのテストの結果からも明らかとなり、良かったと思います。本学は単科大学であるが故に同質の学生が集まりやすいという傾向にあります。グラウンドで、体育館で、教室で、研究室で、それぞれ自分の個性(強み)が活かされる場所で活躍する学生がたくさん出てきて欲しいと願っています。トップアスリートはもとより、スポーツ科学の研究者や世界のビジネスシーンで活躍できる人材など、多方面に巣立ってほしいことを期待しています。新たな入試制度が、日体大にとってきつといい刺激になってくれることでしょう。

●一人ひとりに地道にアピールしていく

志願者数増加の要因として、受験機会の拡大に加え、広報活動の強化が挙げられるのではないのでしょうか。とりわけ、東京・世田谷キャンパスのリニューアルも追い風となつて、平成23年度のオープンキャンパス動員数は前年度に比べておよそ1,600名増えました。さらには、多くの教職員の皆さんの協力を得て、学外での進学相談会や模擬授業等への参加も

体育学部 AO入試・推薦入試と一般入試で

チャンスは
最大5回!

チャンスは2回

スポーツの実績を評価

- ① トップアスリートAO入試
- ② 推薦入試(スポーツ推薦)

(I期またはII期のどちらかの出願に限る)

チャンスは2回

意欲や熱意、 充実した高校生活を評価

- ① 各学科AO入試
- ② 地域ブロックAO入試(関東一都六県を除く)
または推薦入試II期(一般推薦)

チャンスは3回

基礎学力、基礎運動能力を評価

- ① 一般入試A方式

(筆記試験+実技試験)

体育学科

- ② 一般入試A方式

(筆記試験+実技試験)

健康学科

武道学科

社会体育学科

- ③ 一般入試B方式

(筆記試験のみ)

「スポーツが好き！」な高校生、受験生に広く門戸を開放。



●外国人留学生入試の新設で新しい風を

スポーツは世界の共通語であると言われていま
す。本学がスポーツによる国際理解を推進する使命

●平成25年度、入試チャンスが5回に
受験機会の拡大は平成25年度入試においてもさ
らに続きます。「一般推薦(推薦入試Ⅱ期)」の新規導
入です。これによつて、年内には2回(AO入試及び
推薦入試)、年明けには3回(一般入試A方式へ体育
学科+他学科併願)及びB方式と本学受験の機
会が最大5回用意されることとなります。
特に推薦入試では、平成24年度に「全国指定校」
を設け、文武両道を体現する高校生に門戸を開いて
きたところですが、「一般推薦」の新規導入により更
に毎日の学習やクラブ活動に積極的に取り組む、充
実した高校生活を過ごしてきた皆さんにチャンスが
拡がります。ここでは、高い競技実績は求めていま
せん。スポーツが好きなこと、様々なことに努力でき
ること、これらを前提に皆さんの強みを評価したいと
考えています。

強化しました。
「スポーツが好きであれば、日本大はどのような
学生の期待にも応える学修環境がある」、このこと
を伝える最良の手段は一人でも多くの高校生・受験
生と会い、直接対話することです。すでに全国各地で
進学相談会が開催され、この後もオープンキャンパ
スがまだまだ控えています。教職員一同、多くの皆さ
んに出会えることを心よりお待ちしております。

を担っていることは言うまでもありません。世界に
目を向けることは、アスリートとして活躍するにせ
よ、一般社会で活躍するにせよ、今後ますます重要
になります。外国人留学生入試により海外の優れた
人材を受け入れ、本学に新しい風が吹くことを期待
します。

例えば、留学生が本学で日本の伝統スポーツであ
る武道を学び、母国で指導するといったことも考え
られるでしょう。スポーツを軸に、母国と日本の架け
橋となるような人材に入学して欲しいと思います。
一方、本学の学生にとつても、外国人とコミュニケーション
をとったり、異なる文化や習慣に触れたり、共
に学ぶ経験は大きな刺激になるはずです。

●個性を自信を持ってアピールして欲しい

受験生に期待することは、スポーツが好きなこと
に加え、「これだけは頑張ったんだ」、「絶対に夢を叶
えるんだ」、そういう思いを自信を持って訴えて欲し
いということです。そのために、AO入試や推薦入試
など、いわゆる学力とは異なる多様な尺度(評価の
ポイント)を用いているわけです。
スポーツを学ぶには、さまざま切り口があつて、だ
からこそ面白いのです。例えば、プロ野球の経営母
体を見ても、今は楽天やソフトバンク、DeNAと
IT系企業が目立ちます。その前は、流通系のダイ
エーや鉄道系の阪急、近鉄など、その時々々の日本の
経済を牽引してきた業種がプロ野球チームを所有
していることがわかります。スポーツを通じて経済
や政治、歴史を語る事ができるのです。世の中に出
て、自信を持つて人と対等に仕事や議論ができるよ
う、自分の特徴や興味に応じた切り口でスポーツを
学び、教養を深めて欲しいと思います。日本大での
学生生活を通じて、様々な世界でリーダーシップを
発揮できる社会人に育つてもらえたら嬉しい限りで
す。

繰り返しになりますが、スポーツが好きであり、光
る個性を持つ人を大いに歓迎します。そのために入
試のチャンスを拡げました。どうか自信を持つ
てチャレンジしてください。

2012年度 オープンキャンパス 開催日

- 全日程10:30~15:00 予約不要 入退場自由
【東京・世田谷キャンパス】平成24年 8月18日(土)・19日(日)・20日(月) 12月2日(日)
【横浜・健志台キャンパス】平成24年 7月21日(土)・22日(日) 9月23日(日)
◆大学案内に関する問合せ 東京・世田谷キャンパス広報課 03-5706-0948(直通)
◆入学試験に関する問合せ 横浜・健志台キャンパス アドミッションセンター 045-963-7955(直通)
◆受験生応援サイト「エッサッサ」 <http://www.nittai.ac.jp/essassa/>

新規導入『一般推薦』の概要 『一般推薦』 (推薦入試Ⅱ期)

スポーツ活動に積極的な意志を持ち、学力及び人物に優れた者で、学業成績は全体の評定平均値3.8以上、かつ「保健体育」科目の評定平均値4.0以上であること。
但し、武道学科出願者は、高等学校在学時において出願した種目の武道に関する活動を行っている者とする。
選考方法 一次選考：書類審査 二次選考：小論文試験(60分)、個人面接(5分)

一般入試

A方式 2月

- 筆記試験(マークシート方式)
・必須 国語(国語総合:古典を除く)
・選択 英語(英語Ⅰ・Ⅱ)、数学(数学Ⅰ)
2科目から1科目選択
実技試験
・必須 50m走 ※
・選択 上体起こし、反復横とび、
ハンドボール投げ
3科目から2科目選択

※天候またはグラウンドの状態によっては立幅とびに変更することがある

+

B方式 3月

- 筆記試験(マークシート方式)
・必須 国語(国語総合:古典を除く)
・選択 英語(英語Ⅰ・Ⅱ)、数学(数学Ⅰ)
2科目から1科目選択

新任教員紹介 & ヌツセーじ

今年度6名の新任教員が着任しました。その素顔を紹介します。

①所属学科 ②最終学歴 ③出身地 ④専門・研究テーマ ⑤趣味 ⑥座右の銘 ⑦学生時代の思い出 ⑧日体生へメッセージ

カビ×アスリート 命の仕組みを探れ

堀尾 哲也

(ほりお てつや)

- ① 教養・教職科 准教授
- ② 京都大学大学院理学研究科生物物理学専攻博士課程修了 博士(理学)
- ③ 愛知県
- ④ カビを材料に細胞の成長機構のメカニズムを研究しています。これにより、生命の仕組みの精巧さや柔軟性が見えてきます。練習環境の改善にも役立つことでしょうか。
- ⑤ 中学・高校時代はバスケット部に所属。日体OBにも指導してもらいました。植物を育てることももちろん好き。増えすぎて、部屋が密林のような状態になっています。
- ⑥ 特にありません。
- ⑦ バスケットボールのサークルのほか、熱気球の活動も。大会参加のため各地を飛び回っていました。勉強と大学院の研究はその合間にやっていたような感じでしょうか(笑)。
- ⑧ 礼儀正しいという印象です。アスリートとして一流である以上、その他のことでも世間の期待は大きい。それに応えることができる人格と教養を身につけて欲しいと思います。



日体大のことなら 負けない

野井 真吾

(のい しんご)

- ① 健康学科 准教授
- ② 日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程修了 博士(体育科学)
- ③ 東京都
- ④ 学校保健学、教育生理学、発育発達学、体育学を専門領域に、子どもの“からだ”にこだわった研究を行っています。現場の実感を大切に子どものリアルを追究しています。
- ⑤ 典型的な朝型人間です。他大学での勤務経験もありますが、学部、大学院修士前期・後期課程、助手、研究員、非常勤講師と日体大で過ごした期間が長かった結果でしょうか。
- ⑥ Active Living
- ⑦ サッカー部に所属し、毎日ボールを蹴っている毎日でした。やはり、「体育・スポーツ」そして、「子どものからだ研究」のメッカのと言われる伝統を受け継いでいきたいです。
- ⑧ 日体大のいいところをたくさん吸収して、周りの人を元気にする人になって欲しいと思います。そうした魅力を持っている人材が多いと感じています。



釣りが好き! 子どもの 心を釣り上げる!?

齋藤 雅英

(さいとう まさひで)

- ① 教養・教職科 准教授
- ② 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位取得満期退学
- ③ 新潟県
- ④ 専門は教育臨床心理学、発達臨床心理学。発達障害、心理療法(暗示や催眠)、またスポーツメンタルトレーニングについても研究しています。
- ⑤ 釣りが好きで、毎年四国の海まで出かけています。おもに、アジやアオリイカなどを狙っています。
- ⑥ 汝の運命は汝自身の胸中に在り
- ⑦ 真面目な学生だったと思います。日体大体育学科、日体大学院体育学研究科(修士課程)を修了。その後、心理学の道へ足を踏み入れました。
- ⑧ 伝統を継承しながら新たな境地を開拓して欲しいと期待しています。教職や体育・スポーツに関する心理学を伝え、学ぶ面白さ、奥深さを実感してもらえよう努めます。



なでしこJAPANの 選手を指導

矢野 晴之介

(やの せいすけ)

- ① 体育学科 助教
- ② 筑波大学大学院スポーツ健康システム・マネジメント専攻修了 修士(体育学)
- ③ 静岡県
- ④ 川澄選手や丸山選手など、ワールドカップやオリンピックへ選手を輩出するなど、女子選手を多数育成。サッカーについて競技・指導法から文化論まで幅広く研究しています。
- ⑤ もともと美術大へ行きかけたので絵画鑑賞が好きです。建築、デザイン、ファッションや料理にも関心があります。絵画や陶器(古伊万里)も収集しています。
- ⑥ 生きているだけで丸儲け(違いますか?)
- ⑦ サッカー部の合宿所で4年間過ごしました。具志堅先生に「蹴上がり」を教えて頂いたこと、水泳の小早川先生、レスリングの藤本先生の授業が印象に残っています。
- ⑧ 心身共に明朗で快活な学生であって欲しい。私が日体大で感銘を受けた授業は数えきれません。「あの授業は楽しかった」と言ってもらえるような授業をしていきたいです。



プロテニスプレーヤー。 元ユニバーシアード監督

森井 大治

(もりい だいじ)

- ① 体育学科 准教授
- ② 筑波大学大学院修士課程体育研究科コーチ学専攻修了
- ③ 千葉県
- ④ 全日本選手権、ユニバーシアード等に出場。日本ランキング最高位7位。ユニバーシアード北京大会(日本代表コーチ)、テグ大会(日本代表監督)を務めました。
- ⑤ 読書(歴史・ノンフィクション)、音楽鑑賞(ヒップホップ・ラップ系からJ-POPまでなんでも!)、お笑い(お気に入りにはさま〜ず)など。一人カラオケに行きたい!
- ⑥ 根拠の無い自信
- ⑦ テニスと酒をこよなく愛する学生時代でした。プロテニスプレーヤーとして活動後、母校(早稲田大学)の庭球部ヘッドコーチを務め、7年連続大学日本一に導きました。
- ⑧ 元気の良さが素晴らしい! 周りから、さすが日体生と言われたり、思われたりするような行動や言動をして欲しいと思います。みんなで、日本を元気にしていきましょう!



空をこえて海をこえて ~踊る楽しさ伝えたい

仲間 若菜

(なかま わかな)

- ① 武道学科 助教
- ② 沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科舞台美術専攻琉球舞踊組踊専修修了 修士(芸術)
- ③ 沖縄県
- ④ 琉球古典芸能コンクールの「舞踏部門」「箏部門」「太鼓部門」、琉球民謡コンクール「歌・三味」で数々の賞を受賞。とにかく踊ることが大好きです。
- ⑤ 沖縄県出身の「やなわらばー」が大好き。沖縄に帰りたくなったり、掛けそうになったりした時は、やなわらばーの「空をこえて 海をこえて」を聴いて頑張っています。
- ⑥ 強くなるより、優しくなりたい
- ⑦ 武道学科伝統芸能コースに在籍。4年間ダンス部に所属していました。授業では日本舞踊や和太鼓、クラブでは創作ダンスと、毎日「踊る」ということに触れていました。
- ⑧ 忘れて欲しくないのは「元気な挨拶」。私の笑顔にもつながっています。ダンスの楽しさ、奥深さを知ってもらえとともに、教員に必要な指導力を身につけて欲しいです。



TOPICS

東京・世田谷キャンパス竣工記念 特別講演・式典・祝賀会が行われました

平成24年6月9日(土)、東京・世田谷キャンパス記念講堂・メインアリーナにて日本体育大学 東京・世田谷キャンパス竣工記念 特別講演及び式典・祝賀会が行われました。

平成19年2月に着工した再開発工事は平成24年5月に竣工し、この日を迎えました。

この特別講演及び式典・祝賀会には新校舎の寄付協力者をはじめ、政界・経済界・スポーツ界・同窓・大学関係者約1,000名が参加致しました。

また、第68代横綱朝青龍関より寄贈された優勝額の除幕式も行われました。これは日体大と約2年前にモンゴル国立体育大学と「学術・スポーツ交流協定」を締結し交流があることから実現致しました。

谷釜了正学長による特別講演では「日体大120年の足跡を訪ねて」を演題として行われ、今までの歴史を振り返ると共にこれからの展望を語りました。

この東京・世田谷キャンパスの再開発は長年の悲願でもあり、これも本学の創立以来120年の歴史の中で体育・スポーツ界において大多数の卒業生が活躍してこられたことによって成し遂げられたものでもあります。

再開発におきましてご協力いただきました関係者の皆様、同窓の皆様、本当にありがとうございました。

TOPICS

ロンドンオリンピック壮行会が行われました。

平成24年7月9日(月)、東京・世田谷キャンパス記念講堂にて「2012 ロンドンオリンピック」に出場する本学卒業生と現役学生の壮行会を実施しました。

本年7月27日からイギリスのロンドンで行われる「2012 ロンドンオリンピック」には、日本代表選手として、卒業生と現役学生合計の23名(7月11日現在)が出場します。この壮行会はその選手たちに対して、母校である日体大から選手たちをロンドンへ送り出すとともに、健闘を祈念し心から激励のメッセージを送る場として開催するもので、13名の選手が参加しました。

会場には選手のほか、学生・教職員を中心に、来賓、歴代メダリストなど、あわせて約600名が集まり、松浪健四郎理事長をはじめ、谷釜了正学長、日本オリンピック協会副会長の福田富昭氏、特別ゲストで俳優の千葉真一氏、ミュンヘンオリンピック金メダリストで学友会会長の森田淳悟教授が激励の辞を述べました。選手インタビューではロサンゼルスオリンピック金メダリストの具志堅幸司教授が司会を務め、各選手に現在の心境、目標をコーチには選手の調整具合等をインタビューしました。そのうち、プラスバンド部、有志学生と特別ゲストでソプラノ歌手の福田玲子氏、テノール歌手の東小野修氏によるオリンピック賛歌、寮生による日体大独自の応援スタイルである「エッサッサ」、応援部によるエールが行われ、全学を挙げて選手を送り出すセレモニーが繰り広げられました。

日の丸を背負って選手たちは、壮行会で身に受けた「日体大パワー」を糧に、輝かしい歴史に名を刻むことでしょ。我々の誇りである彼らがロンドンの地で活躍してくれることを確信しています。



TOPICS

日本体育大学名誉博士称号授与が行われました。

平成24年7月9日(月)、東京・世田谷キャンパス記念講堂にて、来日中のアフガニスタン・イスラム共和国ハミド・カルザイ大統領へ日本体育大学名誉博士称号(第7号)を授与しました。

授与式では、日本アフガニスタン協会理事長でもある学校法人日本体育大学 松浪健四郎理事長が日本語とペルシャ語で「アフガニスタンと日本との両国間の交流がさらに深まることを強く願う」と祝辞を述べました。

また、来賓として、麻生太郎 元内閣総理大臣にもご臨席いただき、「困難な状況で、スポーツを通じての教育と国家の再建に取り組んでいる」と敬意の祝辞を述べました。

ハミド・カルザイ大統領による記念講演では、「120年の歴史ある日本体育大学から名誉博士称号をいただくことは、想像できないくらい名誉なこと。松浪理事長がカブール大学で武道やスポーツの指導をしてくれた基盤があったからこそ北京五輪でのテコンドーでのメダル獲得に繋がった。また、ここ10年間で空手やサッカー、クリケット、ボクシングなどの競技も成長している。ゼロからのスタートではあったが、楽しみである。」と述べ、今後もスポーツ推進を強調しました。

その後、ロンドン五輪体操代表の田中理恵(本学研究員)から花束贈呈を行いました。

授与式の後、エントランス広場にて谷釜学長、松浪理事長とともに、名誉称号記念植樹のセレモニーがあり、杏の樹に土かけをしていただきました。

なお、称号授与決定理由は次のとおりです。

ハミド・カルザイ大統領は、2002年6月のご就任以来、オリンピック大会やアジア大会において、国内の困難な政治経済状況下にあるにもかかわらず、各大会に選手団を派遣し、平和活動を優先されました。そして、北京オリンピックでは、アフガニスタンの歴史上最初の銅メダルをテコンドーによってもたらし、国民に大きな希望と活力を与えられました。これら、オリンピックムーブメントを推進してきた功績により、ハミド・カルザイ大統領にロンドンオリンピックが開催される記念すべき年に、日本体育大学名誉博士称号を授与することを決定いたしました。



アフガニスタン・イスラム共和国 ハミド・カルザイ大統領
日本体育大学名誉博士称号 授与式コメント

まず友人の皆様、松浪健四郎理事長、第92代内閣総理大臣麻生太郎様、そしてまた、日体大の教授ならびに学生の皆様こんにちは。

今回、120年の歴史を持つ日本の大学より博士号を授与されましたことは、想像もできないほどの名誉と感じております。

さて日体大の歴史をひも解きますと、1891年にスポーツの振興と科学・教育を目指して設立されたということで、まだ当時は現存する多くの国々が存在もしていなかった昔から、このように素晴らしい大学が存在したとかがっています。

皆様のご多くがご存知のように、日本とアフガニスタンは非常に長きにわたって友人関係を樹立してまいりました。

すなわち、仏教がアフガニスタンそして日本へ。いろいろな部分で、日本とアフガニスタンの関係が見られるのみならず、最近の歴史においても歴史をともにする、そしてまた近い国民である両国の関係は親しいものであり、また現在このように日本が素晴らしい発展を成し遂げられた歴史においても両国は深い関係を維持してきました。

そして現在、アフガニスタンが日本の皆様から学べる部分は非常に大きなものがあります。

その関係として象徴的なことは、今朝ミセス緒方(元国連難民高等弁務官)にお会いし、その際日本で農業や電気通信、物理学を学んでいるアフガンの留学生とも会うことができました。

現在、日本政府の支援による奨学金制度を利用して40名のアフガンの学生が学ばせていただいています。

私が今日マダム緒方とともにお話ししたアフガンの学生には、このようなアドバイスをしました。

日本にいる間の1秒1秒を大切に使い、そこで学んだすべてをアフガンのために一生を費やして貢献してほしいというものです。

それは3つの分野に分かれています。

まず第1は、日本や日本の大学で日本が今まで果たしてきた素晴らしい技術力を学ぶこと。

第2は、本当に愛すべき日本の文化と言語を学ぶこと。

そして第3は、非常に洗練され精緻な日本の文化と芸術を学ぶことです。

これらすべてを学び、アフガンに持ち帰ることによってアフガニスタンを日本のように進んだ技術力のある国にすることです。

したがって私も本日の博士号授与を契機として、私自身も日本からこの3つを学び、アフガニスタンに持ち帰って国のために尽くしたいと思っています。

日本とアフガニスタンは非常に長い友好の歴史を持っていますが、その中でも特にこの10年間は日本が最前線に立ってアフガニスタンの支援に動いていただいています。

たとえば昨日も、日本はアフガニスタンの復興のために3年間で30億ドルを支援することを発表なさいました。

また昨年は、非常に称賛の念と驚きをもって次のような発表をお聞きしました。

それは昨年の東日本大震災の津波によって大きな被害を受けられたにもかかわらず、そののちも日本および日本政府は確固たる信念を持って前線に立って、我々の支援にこれからも何十億ドルも拠出していただくという固い決意をひるがえさなかったということです。

ご参加の皆様、アフガニスタンは日本の皆様に多くの恩恵をいただいております。

心から感謝申し上げます。

さて、友人であります松浪理事長は非常にペルシャ語が堪能であります。

またいろいろな面でアフガニスタンにかかわっていただいております。

ご自身が学生としても、また先生として教鞭をとられたということでもあります。

70年代は学生として。

また教師としては、カブール大学の学生に日本の武道・スポーツの指導をしていただきました。

そしてカブール大学で松浪理事長に培っていただいた基盤があったからこそ、前回のオリンピックでアフガニスタンに初のメダルをもたらすことができたと思います。

そしてアフガニスタンは、この10年間スポーツの分野では活躍してきたと思います。

空手、その他の格闘技、サッカー、クリケット、そしてボクシングと、アフガニスタンはいろいろな大会に選手を派遣し活動してまいりました。

テコンドーのニクパイ選手(北京五輪銅メダル)はもちろんですが、それだけではなくありません。

例えば昨年ドイツでチャンピオンを破ってアフガニスタンに栄誉をもたらしたボクシングのラヒン選手も忘れてはなりません。

それだけではなくクリケットやサッカーでも活躍しています。

クリケットにおいては、これは本当に短い7年という期間で、知名度ゼロのチームからトップ20の最高のチームにまで登りつめたという実績があります。

また、サウスアジアのアジアカップでアフガニスタンは2位になりました。

もちろん1位だったと思いますが、レフリーがとても親切に君たちは1位ではなく2位だよ、ということでした。

また、若者も活躍しています。

アフガンに男女の若い世代がメダルをもたらしています。

我々は成功の道に向けて動いています。

そして、その道のりの半ばであります。

もちろんその道は困難な道です。

しかし、先ほどからこの授与式において学長、理事長、麻生元首相からも話があったように、我々の道のりはまだ終わってはおりません。長く、そして平坦な道ではありません。

しかし、日本の皆様のように固い決意を持って我々も成功のための道のりを歩んでいく決意です。

さて10年の間に教育も目覚ましい進歩を遂げました。

現在は800万人、国民の40%が教育を受けることができるようになってきました。

また大学生の数も10年前の4000人から、10万人に近い学生を擁することができるようになってきました。

さらに道路の建設も進み、日本政府の支援で建設されたカブール空港に離着陸する乗客数も現在では160万人に達しています。

このように社会全体が、教育も経済もインフラもこれだけの大きさに育つことができました。

また現在ではメディアに対しても自由な活動を許可しており、実際に本日もメディアの代表が来ています。

経済もこれまでにない繁栄を見えています。

アフガニスタンの国際社会との関係もこれまでにないほど花開いています。

東京の一等地にある素晴らしい建物に入っている我が国の大使館もその象徴の一つといえます。

アフガニスタンの国民が日本国民の持つ勤勉さ、忍耐強さ、そして経済力を学び、それを我がものにするのであればアフガニスタンは今後繁栄することができるでしょう。

日本の勤勉な国民を模範としてアフガニスタンもこれから頑張っていきたいと思っています。

そして世界に対しても大きな力となる国になりたいと思います。

本日は、本当に心から感謝しております。

私の心からの感謝の意を表するのに言葉はいららないと思います。

ひとことしか言えません。

ありがとうございました。

[編集後記]オリンピックシンボルの五輪に込められている意味の一つには世界五大陸(オセアニア、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ)を表し、重なり合う輪は、世界平和の発展への願いが込められています。様々な情勢のなかで各国の選手が競い合い、健闘を讃え合う。選手は、我々に勇気や希望を与えるだけでなく、スポーツで世界をつなぐ重要な使命を担っています。オリンピックを主導的に推進し世界平和に寄与することは、本学の重要な社会的使命の一つでもあります。本学関係23名の代表選手の活躍は勿論ですが、選手全員が自身で納得のいく結果が出せることを願って止みません。頑張れニッター!頑張れニッポン!